

現況：新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する取り組みについて

本年度はオミクロン株による第7波、第8波の対応を行った。ワクチン接種も進み、オミクロン株の毒性の低さによる期待もあったが、感染力の強さによる感染者数の多さによる影響が強く、数多くの入院患者の対応にあたった。我が国で使用できる抗ウイルス薬の数も増えた利点もあったが、高齢者や基礎疾患ありの方では、二次性の細菌性肺炎の合併や元々の基礎疾患の悪化による影響が大きく、入院病床を長期にわたって新型コロナウイルス患者用に使用せざるを得なかった。また、ワクチン未接種者やさらには血液透析患者、血液疾患患者、免疫抑制剤内服中の患者では、従来からのコロナウイルス肺炎が見られたり、また例え肺炎が認められなかったとしてもコロナウイルスの排泄が遅延し、元の基礎疾患の悪化の影響もあり、治療に難渋する症例が数多くみられた。これまでの3年間経験してきた感染対策、治療経験をもとに、5類移行となる来年度5月8日以降も引き続きCOVID-19の対応をしっかりと行っていきたい。

